

的トレンドを抜き去ったとして残る系列は何をあらわす保証があるというのであろうか。

そもそもある時系列からトレンドを抜き去るということ自身が常に出来ることであらうか。ある系列は単純にトレンドと定常過程とを直交的に含んでいるでもあろうが、一般にこの直交性は何處からも保証せられない。定常過程を残すようトレンドを抜くということは、實は、すでに定常過程とトレンドとの直交性を豫定することに等しい。この直交性の前提はトレンド計算の一手法として直交多項式を利用する場合のそれとは全く意味がちがう。

しからばこの疑問点を積極的に打開する方法は何かと逆襲されるかも知れない。評者には今それに対する確たる積極的備えがないが、唯折角著者が不規則的變動そのものの理解において示された Slutsky らの自己回帰系列のアイディアあたりに、もっと掘りおこせば収穫のありそうな豫感も感ぜられるし、あるいは Schumpeter の result trend の考え方にも一つの答は求められよう。

以上の大連関が若干軽く扱われたが故に、これを基盤とする分析方法の解明が著しくバラバラに辞典項目的になったのではないかというのである。

なお実際の経済分析に當って屢々用いられる経済變數のデフレーターに関する扱いを、例えば(第3部)の回帰分析に際してのデータコントロール手法としてでも終り込まれることは、可成り重要な問題と評者には思われるが、あるいはこれも資料論の問題として著者に一蹴されるかも知れない。

評者は以上、平素の著者からの學恩になれて、非禮にあたる評を本書に加えたようである。そのすべてがあまりにも端麗に整えられた本書の構成への嫉妬であれば幸いである。それほど本書は時宜に適った好箇の経済統計學教科書であって、残された「構造分析の問題」が再び著者の練筆によって整頓され、著者の「経済統計學」が完成する日を待つのは、評者ばかりではないであらう。

(伊大知良太郎)

アー・ヴェー・バチューリン著

### 『ソヴェート同盟における利潤と取引税』

ゴスフィンイズダート 1955年

A. B. Бачурин, «Прибыль и налог с оборота в СССР», Госфиниздат 1955 г.

#### 1

國民所得論, 再生産論, 經濟バランス論などが, ソヴ

ェート經濟學界の主要なテーマとしてあらためてとりあげられるようになったのは, 1952年にスターリンの『ソヴェート同盟における社會主義の經濟的諸問題』が出され, さらに1954年に『經濟學教科書』の第1版が出されてからであらう。經濟學教科書のなかで, 國民所得論における重要な諸概念, 純所得, 自分のための生産物と社會のための生産物, 蓄積ファンドと消費ファンド等々の諸概念がその内容規定とともに與えられ, それによって, 國民所得論と, その他の関連分野である再生産論, 經濟バランス論などとの関連が明らかにされたのである<sup>1)</sup>。

ソヴェート國民經濟の再生産=流通過程を総合的につかまえるという, ソヴェート經濟學界の當面している研究テーマを考える場合には, 價格形成論, 純所得の具體的な現象形態としての利潤(利潤控除を含む)と取引税とについての研究, 純所得の中央集中と配分とのテコとしてのソヴェート財政の研究, そのさいの徑路でありそれを推進する機關でもある銀行制度の研究等々の, 関連的な研究が當然必要となる。最近のソヴェート經濟學界は, 右のような諸個別研究を社會主義的再生産=蓄積の見地から總括しようとした試論的研究を數多く出している。ここにとりあげようとするアー・ヴェー・バチューリンの『ソヴェート同盟における利潤と取引税』(1955年)はこのような氣運のなかでうまれた書物で, これを一言にしていうと社會主義社會の純所得の意味およびその現象形態についての分析であり, 言葉をかえれば, 國民所得論あるいは再生産論的見地からみた, 利潤(利潤控除を含む)と取引税との分析である。

#### 2

著者であるアー・ヴェー・バチューリン A. B. Бачурин はソ同盟財務省財政問題研究所 Научно-исследовательский финансовый институт Министерства финансов СССР の指導的な地位にいる人のように思われる。彼には, その編集および執筆にかかる, 『ソヴェート同盟の財政と信用』(モスクワ, ゴスフィンイズダート, 1953年) Авторский коллектив Научно-исследовательского финансового института под руководством А.

1) この點は, 經濟學教科書の章別からも明らかである。ソヴェート社會主義經濟そのものの構造を明らかにするためにおかれた「第3編の第2 社會主義の國民經濟制度」の最後の諸章は, 社會主義から共產主義への漸次的移行を取扱った第39章を別とすれば, つぎのとおりである。——第36章國民所得。第37章國家豫算, 信用, 貨幣流通。第38章社會主義再生産。

V. Бачурина, «Финансы и кредит СССР», Госфиниздат Москва 1953. がある。彼は、1954年の『経済の諸問題』《Вопросы Экономики》(3月號)に本書とほぼ同名の論文(К вопросу о прибыли и налог с оборота в СССР)を發表しているが、本書は右の研究の發展的成果であろう。

## 3

著者は、その「序言」(От автора)のなかで、この書物の主題をつぎのようにのべている。——「この労作のなかには社會主義のもとにおける利潤および取引税の經濟的内容、社會主義經濟の發展のなかでのその特殊性と意義とが考察されている。……それによって社會主義的擴大再生産における、社會のますます増大する欲求の充足における利潤と取引税の意義をあきらかにする可能性が與えられる。」したがって、この書物のなかでは、前節にものべておいたように社會主義擴大再生産のなかにおける利潤と取引税との意味が追及されているのである。

利潤と取引税は、國民所得のなかの純所得である。したがってまず、本書の第1章は、社會的總生産物、國民所得、純所得などの諸範疇の再生産論的な考察にあてられている。「社會主義社會の純所得とその分配」という表題の第1章は、したがって、つぎのような内容をもっている。——第1節、社會主義における社會的總生産物の擴大再生産。第2節、社會主義のもとにおける社會的總生産物と國民所得。第3節、社會の純所得の構成部分としての利潤と取引税。以上の節別とその繼起的な順序そのものが、第1章の内容を端的に物語っているように思う。

純所得が中央集中される場合には、それは、取引税と利潤控除という形をとる。取引税は、生産物の價格形成という見地からみると、原價にたいする追加という形で現われる。ソヴェート同盟の價格においては、輕工業品の價格に取引税の壓倒的部分が含まれており、重工業部面で生産された純所得は、輕工業部面にかかる取引税という形であつめられる。第2章「利潤および取引税の見地よりみたる價格と純所得」は、この間の事由を説明している。その第1節は「價格、社會主義經濟の發展におけるその構成と役割」を論じ、第2節は、「最終消費財の實現の場合の取引税の收納を規定する原因」を論じている。

## 4

以上の分析のあとをうけて、第3章と第4章とでは、企業利潤と取引税という純所得の二つの主要形態にたい

してそれぞれ1章ずつを與えている。この最後の2章が本書の核心部で、そこには、上記の2章によって再生産論的な位置づけを與えられた利潤と取引税についての具體的な分析が與えられている。

「國家企業の純所得(利潤)」という表題の第3章は、5節より成り、ソヴェートの國營企業の經營上の原則である經濟計算制 хозяйственный расчетの意義からときおこして、利潤を論じ、利潤の具體的な配分形態にたちいって、中央集中化された純所得としての利潤控除の意味を明らかにしている<sup>2)</sup>。この章の特色は、上述のような諸カテゴリーにたいする具體的・細目的な敘述が與えられているという点にあらう。このような具體的・細目的な敘述の内容について簡単な概括を與えることはむづかしい。したがって、ここではただ、本書がわれわれに與える新たな知識だけを要約的に拾ってみよう、その第1はフオンド・シルポトレバについての説明である。この章のなかで、評者は、利潤から自己投資分と企業長基金 фонд директораなどが控除されるだけでなく、フオンド・シルポトレバ фонд ширпотребаなるフオンドが控除されることを教えられた。前の二つについてはあらためていうまでもないと思うのでたちいらないが、のちのものについては若干の説明を書きそえておこう。フオンド・シルポトレバ фонд ширпотребаは、いささか譯しにくい言葉であるが、その内容はつぎのとおりである。——「фонд ширпотребаはその組織のなかに、生産の廢物から消費財を生産するところの職場 цехиなり職區 участкиなりをもっている企業で形成される。このフオンドには右の企業が右の消費財の販賣によってえた利潤の95%が控除される。廢品からつくられた半製品も、もしそれが消費財の生産に利用される場合には、この半製品の販賣によってえられた利潤の95%が、このフオンドにはいりこむ。」(67ページ)

このフオンドは、右の消費財の生産擴大や品質向上のために、優秀な労働者にたいする賞與に、および企業の労働者・職員の文化・厚生のために使われるという。のこりの5%は、當該産業省の中央集中フオンドに入れられ、生産競争や展示會の開催、廢品よりつくられる消費財のカタログの作成などにつかわれるという。

これだけでは、このフオンドがいかなる意味をもって

2) 企業の純所得すなわち企業利潤のすべてが中央集中化されるのではない。そのうち、若干部分が企業自體によって控除される。それらは、大きくいって自己投資のための控除と企業長基金とであらう。本書の66ページ以下は、それらの控除分の控除率について具體的にのべている。



いるかよくわからないが、ともかく、評者がこのようなカテゴリヤに出会ったのは、本書がはじめてであることをかきそえておく。

もうひとつ書きそえておきたいのは、この章のなかで、経済採算制の単位としてのグラフキ *главки* がかなり重要な役割を果していることが具体的にのべられていることである。この点をくわしくのべている餘裕はないが、本書の 69 ページから 74 ページへかけて、経済採算制のなかでのグラフキと企業との関係がかなり具体的にのべられている点、評者には興味が深かった。

## 5

社会主義社会の純所得のもうひとつの構成部分でありまた現象形態でもあるのは取引税である。第3章における利潤の分析にひきつづく第4章は、取引税の分析にあてられている。この章でのわれわれの興味は、なぜ純所得の中央集中化のテコとして取引税と利潤控除とが使用されるかについての説明がなされる (116 ページ)<sup>3)</sup> とともに取引税についてのかかなり具体的な説明が與えられている点である。すなわち、取引税の支拂にたいして責任を負う機關、取引税の支拂期などの諸項目にひきつづいて、1930年の税制改革によって従來の諸税が整理され、全部で約70あった諸税のうち、53の税が取引税として再編成されるプロセスを具体的にのべているあたりは、興味深くよまれる。

最後に戦後の諸年の國家財政歳入における利潤控除と取引税の相互關係の推移と、これら中央集中化純所得の増大要因をのべ、ついで、右のソヴェートの經驗が人民民主主義諸國にも一般的に妥當することを指摘して本書はおわっている。

## 6

ここでこれまでの評價を再確認しつつ、本書の意義を要約してみよう。本書の特色は、第1—2章で、利潤(利潤控除)と取引税とを純所得の二つの要素、現象形態としてとらえ、それにつづく二つの章で、充分詳細に、この二つのカテゴリヤにたいする特殊・具体的な説明を與えている点である。その点、構成の上からはきわめて

3) これはとりたてていうまでもないと思うが、取引税は各企業の計畫遂行度の如何にかかわらず國家財政歳入の安定性を確保するためであり、利潤控除は、計畫の遂行度の状態によって規定される純所得(利潤)の現實量に即して國家財政歳入を確保するためのものであり、両者が相互補充的に機能することによって、社会主義經濟の純所得が中央集中されるのである。

まとまりのいい書物である。分量からいっても手頃であるが、それだけに十二分に詳細とはいいがたい。ただ、この二つのカテゴリヤのおかれている *setting* をあきらかにし、今後よりたちいった細目研究にはいろいろとする研究者にとって、出發点として利用されるのには充分に貴重な書物である。近年におけるソヴェート學界の新しい研究方向の一つの成果として、一讀に値いする。

(野々村一雄)

ウィリアム・H・タウンゼンド

## 『リンカーンとブルーグラス』

—ケンタッキー州における奴隷制度と内戦—

Townsend, William H., *Lincoln and the Bluegrass — Slavery and Civil War in Kentucky*. University of Kentucky Press, 1955. pp. xiv+392.

## 1

表題中の the Bluegrass とは、bluegrass がたくさん生えているといわれる、いわゆる Bluegrass Region のことである<sup>1)</sup>。だいたい Kentucky 州の中部地方を指す。南北戦争以前この地方は、長いあいだ Kentucky 州における奴隷制度繁榮の心臓部であった。Lexington は、そこでの政治・經濟・文化の中心地で、「西部のアテネ」“Athens of the West” とよばれた。のちに Lincoln の妻となった Mary Ann Todd は、この地の名門の出で自らも著名な一政治家であった Robert S. Todd の娘として、そこに生れそこで大きくなった。

北部ブルジョアジーの南部奴隷所有者階級にたいする妥協のはじまりといわれる 1820年の Missouri 協定の境界線(北緯 36 度 30 分)沿いの北方に位置し、内戦にさいしては北部と南部の境界地域にあたる border states (Del., Md., Va., Ky., Tenn., Ark., の諸州) のひとつとして微妙な立場をとった Kentucky 州——その Kentucky 州の奴隷制度には、Deep South のそれとは異った patriarchal な一面があったといわれているが、しかしそれととも、野蠻・殘忍・無智・隷従などの言葉で示される、この制度に本來的に固有な非人間的な一般

1) すずめのかたびら屬。芝に似た草で、Kentucky 州から Tennessee 州にかけて多く繁茂する。とくに牧草として秀れている。そこから、Kentucky bluegrass, Meadowgrass, Spearglass とよばれる。また、Kentucky 州のことを the state of bluegrass ともいう。